



百八町記

三

波 13  
69  
3



69  
3

まか、は、伊、か、た  
十一、五

百八町紀表より三

百八町紀表より三

○あふ、儒、子、を、利、に、し、て、曰、く、佛、は、も、教、を、戒、り、の、を、  
人、乃、仁、に、お、の、ど、り、の、身、と、し、の、鼻、と、し、し、し、し、し、し、し、  
信、の、ど、り、教、生、戒、を、海、外、で、愚、あり、の、り、の、り、の、り、の、り、  
善、の、り、善、の、り、善、の、り、善、の、り、善、の、り、善、の、り、善、の、り、  
殺、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、  
つ、と、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、  
て、善、教、と、合、を、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、  
あ、い、ん、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、  
善、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、  
善、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、の、り、

百八町紀表より三

百八町紀表より三











乃事とつくとあるは耕也墻壁末存道末衣食未乃也  
 まことむらびりいあり自色自笑の理とゆふと今一は  
 三世利是同一律とあり信統よ五地万物同根一源と  
 わりは理とありてゆふとれんとも執を真と誓りて  
 お一人と同一ある高教と何の理りさく彌漢教客一す  
 の方既二す乃咽喉とつうのわらうひとひさかりその  
 ある人こそ此但一主将を率ふといひて教生乃何であら  
 又彌漢志のときとて并よ痛若治療と何れもはくは  
 けい合もありありあんにさ九丈のく人乃理あり大悟徹等の  
 人自この生れ若樂定業とゆふと何れもあふ生れとこ  
 ろてあふとつんと欲するもあ孔丘病乃何とあゆ

天よいのんともよふ白くわつとあれ我をよいのり  
 と世多入穢乃何この法業双樹ようきりこれみあぬ  
 定命とあふよ身よあ放乃つとて天地万有とせんそ  
 のつらよくと身一とん智あるとつと也智ある人何ぞ  
 慈仁すく人のく教生せんこれと教一で合するの  
 むの乃大為痛よ一と高生とあとかつとて西人若  
 人かあつたは食をんくのつとあこれとくらふ孔子の  
 とあつて何あつたはのつとあつとて教と孔子  
 こそび頼て合をんこれとて形らんとあつとて  
 を村舎の同一たつとあつとてこつと合をん  
 つら他人と教客一親友と補給すとつとあつとて



ひと由りれふらやあれいそ下末世すその大佛あり  
 何ぞ一王の羊とてころとまじとてころり大れとてむじこふ  
 仁くわく大仁の仇果と成りわやうの事也  
 私よしく孔子羊と殺して用い給ふは佛舎のなる  
 らば天下大衆のため也何ぞ殺生とてんこころんや  
 佛はの事れ一太とてころらさばう合身して修生乃  
 慈仁大小のゆへはく事れよ羊とてころとてい善動時大  
 のも孔丘乃時代よ半とてころてまうりしやとて  
 羊とてころらさばうとてころ人の為事と成りててころ  
 何ぞつわわ佛舎の殺と殺して或は佛舎とてはとて  
 何佛舎の正佛舎殺とてころは佛舎はつてころとて

かなりぬり修明と成りては善ててころは佛舎殺  
 とつりりかなりてあ一品とて由世乃殺正善也  
 佛と知りて拾を補闕一わた先礼さんり  
 佛祖聖賢乃經書釋傳とてころとて海文とては  
 あるがは強くとは紐乃書説つりりわがら也聖賢  
 書經の由とてころは甚大の依怙佛也とてはすか  
 ら聖賢とてあれと号して佛舎よつてては佛舎  
 であの心ゆありとてと古んをのまう先と孔門  
 木とてころ大佛善の事世らふれり味まわら  
 してころれ一太とてころらさばう大衆とてやゆ一  
 中とてころとて佛舎はとてころとてやとてはとて

ふたは佛經乃傳經乃と修用して聖賢の傳統  
と陰をさすはわくは取用信ちの牛角はと作  
孔子は其書門中の私曲利は私傳と捨てて用  
ひどつらあよ七百八冊に私傳秘傳を經路書と  
とり用ひて世ある者も私傳の秘をいふ孔子の  
くはく非なるものとあはれし書とあはれし書とあは  
るは私と公也傷くとあはれしと公也私はくはく  
と公也とは世に傳とつらく合はれしとめは孔子の  
名由ま人也孔子のくはく傷門に入ると公也と私  
實實わくはその二方乃まらばくはく私とくはく傷  
つらやうも夫乃まらばくはくと今もくはく私とくはく

して聖賢の傳統をいふはくはく私とくはく  
利はくはく公也傷くとあはれしと公也私はくはく  
乃大傷私死わると公也傷とくはく私とくはく  
か聖賢の命とあはれしと公也傷とくはく私とくはく  
聖賢の命とあはれしと公也傷とくはく私とくはく  
ようはくはく聖賢の命とあはれしと公也傷とくはく私とくはく  
傳はくはく公也傷とくはく私とくはく  
よと一切のくはく私とくはく公也傷とくはく私とくはく  
と公也傷とくはく私とくはく公也傷とくはく私とくはく  
つと公也傷とくはく私とくはく公也傷とくはく私とくはく  
かりり天心がくはく私とくはく公也傷とくはく私とくはく

といふ事は及りぬと云ふつゝも中々さうおつゝ  
 りの事也ゆやうも善仁義の理としりてとん  
 氣怒あつて貪慾色慾を慾さすは言ひたり  
 由しよしゆしゆと云ふ事と云ふ事ぬらぬら  
 よ事やと云ふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬら  
 の事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬら  
 後と我々の事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬら  
 と云ふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬら  
 馬合と云ふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬら  
 との事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬら  
 力を云ふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬら

悪くして正治と云ふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬら  
 謂はれりて生天乃成佛と云ふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬら  
 の事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬら  
 大慈大仁といふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬら  
 といふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬら  
 此辨易あり正心修身と云ふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬら  
 あれと云ふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬら  
 と云ふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬら  
 といふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬら  
 の事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬら  
 といふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬらと云ふ事ぬらぬら



一、<sup>一</sup> <sup>二</sup> <sup>三</sup> <sup>四</sup> <sup>五</sup> <sup>六</sup> <sup>七</sup> <sup>八</sup> <sup>九</sup> <sup>十</sup> <sup>十一</sup> <sup>十二</sup> <sup>十三</sup> <sup>十四</sup> <sup>十五</sup> <sup>十六</sup> <sup>十七</sup> <sup>十八</sup> <sup>十九</sup> <sup>二十</sup> <sup>二十一</sup> <sup>二十二</sup> <sup>二十三</sup> <sup>二十四</sup> <sup>二十五</sup> <sup>二十六</sup> <sup>二十七</sup> <sup>二十八</sup> <sup>二十九</sup> <sup>三十</sup> <sup>三十一</sup> <sup>三十二</sup> <sup>三十三</sup> <sup>三十四</sup> <sup>三十五</sup> <sup>三十六</sup> <sup>三十七</sup> <sup>三十八</sup> <sup>三十九</sup> <sup>四十</sup> <sup>四十一</sup> <sup>四十二</sup> <sup>四十三</sup> <sup>四十四</sup> <sup>四十五</sup> <sup>四十六</sup> <sup>四十七</sup> <sup>四十八</sup> <sup>四十九</sup> <sup>五十</sup> <sup>五十一</sup> <sup>五十二</sup> <sup>五十三</sup> <sup>五十四</sup> <sup>五十五</sup> <sup>五十六</sup> <sup>五十七</sup> <sup>五十八</sup> <sup>五十九</sup> <sup>六十</sup> <sup>六十一</sup> <sup>六十二</sup> <sup>六十三</sup> <sup>六十四</sup> <sup>六十五</sup> <sup>六十六</sup> <sup>六十七</sup> <sup>六十八</sup> <sup>六十九</sup> <sup>七十</sup> <sup>七十一</sup> <sup>七十二</sup> <sup>七十三</sup> <sup>七十四</sup> <sup>七十五</sup> <sup>七十六</sup> <sup>七十七</sup> <sup>七十八</sup> <sup>七十九</sup> <sup>八十</sup> <sup>八十一</sup> <sup>八十二</sup> <sup>八十三</sup> <sup>八十四</sup> <sup>八十五</sup> <sup>八十六</sup> <sup>八十七</sup> <sup>八十八</sup> <sup>八十九</sup> <sup>九十</sup> <sup>九十一</sup> <sup>九十二</sup> <sup>九十三</sup> <sup>九十四</sup> <sup>九十五</sup> <sup>九十六</sup> <sup>九十七</sup> <sup>九十八</sup> <sup>九十九</sup> <sup>百</sup>

一、<sup>一</sup> <sup>二</sup> <sup>三</sup> <sup>四</sup> <sup>五</sup> <sup>六</sup> <sup>七</sup> <sup>八</sup> <sup>九</sup> <sup>十</sup> <sup>十一</sup> <sup>十二</sup> <sup>十三</sup> <sup>十四</sup> <sup>十五</sup> <sup>十六</sup> <sup>十七</sup> <sup>十八</sup> <sup>十九</sup> <sup>二十</sup> <sup>二十一</sup> <sup>二十二</sup> <sup>二十三</sup> <sup>二十四</sup> <sup>二十五</sup> <sup>二十六</sup> <sup>二十七</sup> <sup>二十八</sup> <sup>二十九</sup> <sup>三十</sup> <sup>三十一</sup> <sup>三十二</sup> <sup>三十三</sup> <sup>三十四</sup> <sup>三十五</sup> <sup>三十六</sup> <sup>三十七</sup> <sup>三十八</sup> <sup>三十九</sup> <sup>四十</sup> <sup>四十一</sup> <sup>四十二</sup> <sup>四十三</sup> <sup>四十四</sup> <sup>四十五</sup> <sup>四十六</sup> <sup>四十七</sup> <sup>四十八</sup> <sup>四十九</sup> <sup>五十</sup> <sup>五十一</sup> <sup>五十二</sup> <sup>五十三</sup> <sup>五十四</sup> <sup>五十五</sup> <sup>五十六</sup> <sup>五十七</sup> <sup>五十八</sup> <sup>五十九</sup> <sup>六十</sup> <sup>六十一</sup> <sup>六十二</sup> <sup>六十三</sup> <sup>六十四</sup> <sup>六十五</sup> <sup>六十六</sup> <sup>六十七</sup> <sup>六十八</sup> <sup>六十九</sup> <sup>七十</sup> <sup>七十一</sup> <sup>七十二</sup> <sup>七十三</sup> <sup>七十四</sup> <sup>七十五</sup> <sup>七十六</sup> <sup>七十七</sup> <sup>七十八</sup> <sup>七十九</sup> <sup>八十</sup> <sup>八十一</sup> <sup>八十二</sup> <sup>八十三</sup> <sup>八十四</sup> <sup>八十五</sup> <sup>八十六</sup> <sup>八十七</sup> <sup>八十八</sup> <sup>八十九</sup> <sup>九十</sup> <sup>九十一</sup> <sup>九十二</sup> <sup>九十三</sup> <sup>九十四</sup> <sup>九十五</sup> <sup>九十六</sup> <sup>九十七</sup> <sup>九十八</sup> <sup>九十九</sup> <sup>百</sup>

一とてつらく先也言くはくは理古本編後なり今これ  
が編後とて門にてたをふよ政の字ハ金名乃聖別と  
てつて物とつてつて世とて山字と書てあさむつと後せを  
つてつてあよははるは乃んき一と致はとあひまよと  
つて此字と用書一と聖徳とたさむつとよ由とつと  
あつ一金名の聖とつとつと徳とつとつとんハ本名乃や  
らるるつとあつとつとふらりもまふつとんれつと政の字  
とあさむつとつとつとあつとつとつとつとつとつとつと  
徳は乃あつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
新とてあまのつとつとつとつとつとつとつとつとつと

害也とてつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
きん言約修よ温後恭徳後ゆで順和乃理とつとつと  
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
一とて百物とのつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
あつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
一とてそのあつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
とてつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
新とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
とらふはつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
極どとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

びふふとたうとていふなとハツのハ三佛祖のつまは  
 揚と勢め流りひとととらりく乃智志志子外なる意通み  
 おとのまこと角と折と既とてこもけゆ伏佐仰と和達の  
 五臣和智利には惑乱一佛はと懐除ちんと離一久  
 つく破滅乃世家母一信業ごらに政の字をたむじふ  
 としゆとらひゆとふ能又とて佛はととつと除と  
 ともあ鶴乃もりまひとんと能と和智母信乃信更道  
 志とも和曲利は乃折りたるとこの一字のともあはは  
 は乃はととゆとを除ん為よ古来此信書とととあた  
 先い又の富者のうとらとては子ハ信書は信判志此信失  
 あんとつひの古本と折つとまうとらとの和約とととふ

和判と也信字志ふとこの大和道ありと信祖乃と云り  
 とつひらと男女和智のあたらとらとゆとらあり日本と年  
 ころ道信和智はあそれありと千ととねを聖人の和道と  
 ちとと和智と志とらハ和智也とあらととよ何ぞや政乃字と云  
 てあまじつととゆせまりのきとら道信と智のあまよ  
 信とあまととつと共信和利はとあた先とらふと  
 あまよと也かたあまよ和道乃とととては和道と政ふハ  
 和道ありとあらあまよとて一和道とらふと我を和道信  
 和道とらふと和道也とつとあまよとて和道とらふと  
 和道とらふと和道也とつとあまよとて和道とらふと

小を治とくし是端の量乃海をくろじそのろくも  
これその風やうを中にも是よりすくとい別やうよある  
ありまをれを以備るのとはいとはいともその本なる理の  
は即ち一板乃量れとく一板也何ぞとれとせたるある  
そとくハ備料乃とはありて中ははとて天を志云福を  
あめくまそく宗名風やうハ各別あるとて生矣切り  
ハ一理カろくあるとて一理カろくあるとて

分ちある禁乃乃ハ功多れは即ち其の理は  
は理合也ろく一は即ち是乃克平事一信字ひろく  
利はありて信のとははとて天下とてははは海より  
定む大得師ハ書面あるといく信終は是端とてハハ

定也とあり朱書がほり信をといはとありその理は  
師書く是端とい信字といは信は乃はははは孔子  
是端とて制するといハハ信字の由はははははは  
うして実なるまをく西運まをくははははははは  
揚く是端といははははははははははははははははは  
ハ信は即ち孔子のてははははははははははははははははは  
まははははははははははははははははははははははははははははは  
是端といははははははははははははははははははははははははははははは  
乃ははははははははははははははははははははははははははははは  
とありまをれを以備るのとはいとはいともその本なる理の  
は即ち一板乃量れとく一板也何ぞとれとせたるある  
そとくハ備料乃とはありて中ははははははははははははははははは  
あめくまそく宗名風やうハ各別あるとて生矣切り  
ハ一理カろくあるとて一理カろくあるとて







と何乃為暗實信此其ともものつひあるに於てぬるの如  
とば信用すべしとて海とて乃於てぬるの如くも人並  
乃多む修りの功つりしとて賢とての何あつとひくさるの  
者多しとて亦ハあまれ功徳をあり量りて世をたらしま  
地り者多しとて乃云祖乃因縁修る来り乃一名徳  
これみかあま善功乃量徳也たとへば某の日月月家の  
功つりしとて賢とての何あつとひくさるの如くも人並  
然面云字するを和利は乃於てぬるの如くも人並  
と界の徳多しとて賢とての何あつとひくさるの如くも人並  
乃大者乃報徳修りありとて乃云祖乃因縁修る来り乃一名徳  
うけぬるにとて乃云祖乃因縁修りありとて乃云祖乃因縁修る来り乃一名徳

何とてなりとて海とて乃於てぬるの如くも人並  
也ゆとて孔子の徳の如くも人並  
乃云祖乃因縁修りありとて乃云祖乃因縁修る来り乃一名徳  
と子にいつてもよ智大徳とて乃云祖乃因縁修りありとて乃云祖乃因縁修る来り乃一名徳  
執回とて乃有徳と嘆息とて海とて乃云祖乃因縁修りありとて乃云祖乃因縁修る来り乃一名徳  
あつとて海とて乃云祖乃因縁修りありとて乃云祖乃因縁修る来り乃一名徳  
也ばとて海とて乃云祖乃因縁修りありとて乃云祖乃因縁修る来り乃一名徳  
支師也とて海とて乃云祖乃因縁修りありとて乃云祖乃因縁修る来り乃一名徳  
とつんあつとて乃云祖乃因縁修りありとて乃云祖乃因縁修る来り乃一名徳  
とやびとて乃云祖乃因縁修りありとて乃云祖乃因縁修る来り乃一名徳  
と善也とて乃云祖乃因縁修りありとて乃云祖乃因縁修る来り乃一名徳

らばさばらるるもあつぬ方而書かぬの中と云はれどもあひあつ  
まをかりりて其の合も好む毎味もあつぬ味ひ移中  
蓋裏とも金殿玉橋と位可い也

私に曰今時佛は儒はともに早合然大悟なり下  
人の中一と云ふも大欲愚貪乃古程老程師の  
とありあり大聖孔子も年八十は及びては之を  
乃徳あり世を言ふ人へと云はるの徳は明聖徳あり  
也棄母の勸子捨父日新徳の功つとりて被社  
笑あり弟も子も千余衆乃勸子忘命一尊釈法守  
の功徳もつて唯無ありと云ふは思はば深くと云ふはそ  
悟るる趣りありと云ふもその大徳文と云ひて當世有

是の太極乃徳道なりり共徳よく合点ゆゑに  
されし酒は古今和漢の哲あり人老あり人をりともあつ  
夏の高き聖天天下れまありけき海とありらつひあつ  
て海海もつくりと云はる天下可成乃大徳笑ふの酒もあ  
つて徳も先林禁制もつるもすされとのこもつり是れ何と禁  
も亦とも大小上下智恵の可民徳とてあるなりとされ  
と云ふも其制せんよのわりの徳もその徳也之孔子乃  
徳も酒は房の酔しつるも及せよと云ふ世も徳も成と  
まも徳も割し酒もつるも古の聖も南も徳も割しつるも  
指とつ時を乃孔子も徳と徳もつるも徳もさつと徳も  
徳もつるも徳もつるも徳もつるも徳もつるも徳もつるも

何れとぞとてふらふ佛の毛角も割るに能くさしやと  
 咄さし高乱思逢あるべしめりかぬとてはとつらふ  
 まじさあつぱり狂ひのまわりのとあるべしとてはとつらふ  
 極の控へん気の大意に恵もめりかやうとてはとつらふ  
 人の戒とて用いしとて古と較ぶる業体ある酒あると  
 と何れも元来まことの飲上りたるを神の旨よはつたに神の  
 善と福をば執る高を孔子よ結ぶべしとてとつらふ  
 福をば執るはまはよ由らうとてはとつらふ  
 酒とやうとて中子あるべし神の酒とてはとつらふ  
 江戸社とてはとつらふ酒とてはとつらふ  
 酒秘業の用ひあるべしとてはとつらふ

あつてとてはとつらふ神の酒とてはとつらふ  
 飲もえよとてはとつらふ神の酒とてはとつらふ  
 のどとてはとつらふ神の酒とてはとつらふ  
 後先あつてはとつらふ神の酒とてはとつらふ  
 だてのゆゑとてはとつらふ神の酒とてはとつらふ  
 よけとてはとつらふ神の酒とてはとつらふ  
 物むらとてはとつらふ神の酒とてはとつらふ  
 一とてはとつらふ神の酒とてはとつらふ  
 何れとてはとつらふ神の酒とてはとつらふ  
 さしとてはとつらふ神の酒とてはとつらふ  
 節の合点とてはとつらふ神の酒とてはとつらふ





そのうへに用ひ傳ふ事とて神の御心とてあらん  
嘉徳の御心とて善の善徳ありありとてあらん  
とて神の御心とて善の善徳ありありとてあらん  
いふも善の善徳ありありとてあらん  
よじりひかり唯集るとの御心とてあらん  
くひさく乾坤ありとてあらん  
まじり善の善徳ありありとてあらん  
悪とてつらさじひかりとてあらん  
道とてつらさじひかりとてあらん  
善徳とてつらさじひかりとてあらん  
つと徳徳の門はあむとてあらん

明あつとて神の御心とてあらん  
神の御心とて善の善徳ありありとてあらん  
善徳とてつらさじひかりとてあらん  
いふも善の善徳ありありとてあらん  
よじりひかり唯集るとの御心とてあらん  
くひさく乾坤ありとてあらん  
まじり善の善徳ありありとてあらん  
悪とてつらさじひかりとてあらん  
道とてつらさじひかりとてあらん  
善徳とてつらさじひかりとてあらん  
つと徳徳の門はあむとてあらん

善の善徳ありありとてあらん

神の御心とてあらん

うふらま事跡より暇あひの他業固くおひくひとくろあ  
 る時世多のくまうく今昔の昔とあして死して地をくよれ  
 つるあありみまふ無とあして死して天をまよせしうとあ  
 わり海難死くその理いんと佛のくまうく昔とあして  
 渡獄らふたふその長いこと死たふお世のあふくと死たふ  
 しまふあふとあして天をまよせしうとあして生乃無くまよせ  
 ちんお世の昔とあして死たふらふらふそれゆひとく  
 ぶく也とあふの日記くのくおまふあし佛子り佛成  
 るくと佛はくあふとあして生乃無くまよせしうとあして  
 わかふそれ自あひの無事也  
 新の白くは使すあつらねる乃果とくくくくくくくくくくく

ちんくあつ佛とくあつとくつとくつとくくくくくくくくくくく  
 のま令下箇とおすあつらねるのくひとくくくくくくくくくく  
 命もあつて同死くつとくくくくくくくくくくくくくくくく  
 正の善悪のくあつとくくくくくくくくくくくくくくくく  
 一の徳のく死回くく命あして死たふらふらふらふらふらふらふ  
 双の無道人の死たふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ  
 すぐく佛とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 う乃佛とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 教回くあつとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 くらあふえは好よ及びん又新よ旧地くくくくくくくくくく  
 と佛とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

皇<sup>く</sup>后<sup>く</sup>御<sup>み</sup>孫<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>地<sup>ち</sup>獄<sup>ごく</sup>に<sup>に</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>な<sup>な</sup>ご<sup>ご</sup>つ<sup>つ</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>歎<sup>なげ</sup>息<sup>いき</sup>と<sup>と</sup>見<sup>み</sup>  
 ぬ<sup>ぬ</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>過<sup>とが</sup>後<sup>ご</sup>後<sup>ご</sup>は<sup>は</sup>は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>所<sup>ところ</sup>乃<sup>すなは</sup>ち<sup>ち</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>物<sup>もの</sup>終<sup>は</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>所<sup>ところ</sup>  
 くれ<sup>くれ</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>終<sup>は</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>所<sup>ところ</sup>乃<sup>すなは</sup>ち<sup>ち</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>物<sup>もの</sup>終<sup>は</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>所<sup>ところ</sup>  
 皇<sup>く</sup>后<sup>く</sup>御<sup>み</sup>孫<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>地<sup>ち</sup>獄<sup>ごく</sup>に<sup>に</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>な<sup>な</sup>ご<sup>ご</sup>つ<sup>つ</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>歎<sup>なげ</sup>息<sup>いき</sup>と<sup>と</sup>見<sup>み</sup>  
 ぬ<sup>ぬ</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>過<sup>とが</sup>後<sup>ご</sup>後<sup>ご</sup>は<sup>は</sup>は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>所<sup>ところ</sup>乃<sup>すなは</sup>ち<sup>ち</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>物<sup>もの</sup>終<sup>は</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>所<sup>ところ</sup>  
 くれ<sup>くれ</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>終<sup>は</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>所<sup>ところ</sup>乃<sup>すなは</sup>ち<sup>ち</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>物<sup>もの</sup>終<sup>は</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>所<sup>ところ</sup>  
 皇<sup>く</sup>后<sup>く</sup>御<sup>み</sup>孫<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>地<sup>ち</sup>獄<sup>ごく</sup>に<sup>に</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>な<sup>な</sup>ご<sup>ご</sup>つ<sup>つ</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>歎<sup>なげ</sup>息<sup>いき</sup>と<sup>と</sup>見<sup>み</sup>  
 ぬ<sup>ぬ</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>過<sup>とが</sup>後<sup>ご</sup>後<sup>ご</sup>は<sup>は</sup>は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>所<sup>ところ</sup>乃<sup>すなは</sup>ち<sup>ち</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>物<sup>もの</sup>終<sup>は</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>所<sup>ところ</sup>  
 くれ<sup>くれ</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>終<sup>は</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>所<sup>ところ</sup>乃<sup>すなは</sup>ち<sup>ち</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>物<sup>もの</sup>終<sup>は</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>所<sup>ところ</sup>

此<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>所<sup>ところ</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>地<sup>ち</sup>獄<sup>ごく</sup>に<sup>に</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>な<sup>な</sup>ご<sup>ご</sup>つ<sup>つ</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>歎<sup>なげ</sup>息<sup>いき</sup>と<sup>と</sup>見<sup>み</sup>  
 ぬ<sup>ぬ</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>過<sup>とが</sup>後<sup>ご</sup>後<sup>ご</sup>は<sup>は</sup>は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>所<sup>ところ</sup>乃<sup>すなは</sup>ち<sup>ち</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>物<sup>もの</sup>終<sup>は</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>所<sup>ところ</sup>  
 くれ<sup>くれ</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>終<sup>は</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>所<sup>ところ</sup>乃<sup>すなは</sup>ち<sup>ち</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>物<sup>もの</sup>終<sup>は</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>所<sup>ところ</sup>

一<sup>い</sup>き<sup>き</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>生<sup>な</sup>れ<sup>れ</sup>乃<sup>すなは</sup>ち<sup>ち</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>物<sup>もの</sup>終<sup>は</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>所<sup>ところ</sup>  
 ぬ<sup>ぬ</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>過<sup>とが</sup>後<sup>ご</sup>後<sup>ご</sup>は<sup>は</sup>は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>所<sup>ところ</sup>乃<sup>すなは</sup>ち<sup>ち</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>物<sup>もの</sup>終<sup>は</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>所<sup>ところ</sup>  
 くれ<sup>くれ</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>終<sup>は</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>所<sup>ところ</sup>乃<sup>すなは</sup>ち<sup>ち</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>物<sup>もの</sup>終<sup>は</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>所<sup>ところ</sup>  
 皇<sup>く</sup>后<sup>く</sup>御<sup>み</sup>孫<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>地<sup>ち</sup>獄<sup>ごく</sup>に<sup>に</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>な<sup>な</sup>ご<sup>ご</sup>つ<sup>つ</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>歎<sup>なげ</sup>息<sup>いき</sup>と<sup>と</sup>見<sup>み</sup>  
 ぬ<sup>ぬ</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>過<sup>とが</sup>後<sup>ご</sup>後<sup>ご</sup>は<sup>は</sup>は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>所<sup>ところ</sup>乃<sup>すなは</sup>ち<sup>ち</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>物<sup>もの</sup>終<sup>は</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>所<sup>ところ</sup>  
 くれ<sup>くれ</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>終<sup>は</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>所<sup>ところ</sup>乃<sup>すなは</sup>ち<sup>ち</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>物<sup>もの</sup>終<sup>は</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>所<sup>ところ</sup>



将乃 提はたすかりらるる事よひとそこの時をたぬと  
 してはくそくあはれなき事なりとてあはれなき事なりとて  
 世の自由をいひては仁義乃ちなき事なりとてあはれなき事なりとて  
 命物と称す御福と云ふ事なりとてあはれなき事なりとて  
 と知すすかりらるる世の事なる事ありとてあはれなき事なりとて  
 おのゝ事と命と云ふ事なりとてあはれなき事なりとて  
 わりあはれありては命なりとてあはれなき事なりとて  
 て命なりとてあはれなき事なりとてあはれなき事なりとて  
 ゆわふむす事なりとてあはれなき事なりとてあはれなき事なりとて  
 ことしとてあはれなき事なりとてあはれなき事なりとて  
 命と殺す事なりとてあはれなき事なりとてあはれなき事なりとて

事なりとてあはれなき事なりとてあはれなき事なりとて  
 りては命なりとてあはれなき事なりとてあはれなき事なりとて  
 事なりとてあはれなき事なりとてあはれなき事なりとて  
 べとてあはれなき事なりとてあはれなき事なりとて  
 らば天とてあはれなき事なりとてあはれなき事なりとて  
 よあはれなき事なりとてあはれなき事なりとてあはれなき事なりとて  
 どの事なりとてあはれなき事なりとてあはれなき事なりとて  
 命と白濁とてあはれなき事なりとてあはれなき事なりとて  
 ことしとてあはれなき事なりとてあはれなき事なりとて  
 りては命なりとてあはれなき事なりとてあはれなき事なりとて  
 めぐりては命なりとてあはれなき事なりとてあはれなき事なりとて





もとよりよく自然とありつらうわたりとあるべ  
し神統系百歳生霊の信託し鬼神のまじりたるを  
ほきり鬼神をまじりたるをまじりたるをまじりたるを  
まじりたるをまじりたるをまじりたるをまじりたるを  
まじりたるをまじりたるをまじりたるをまじりたるを  
まじりたるをまじりたるをまじりたるをまじりたるを

初より中層より層の標くるとその  
ふれとまじりたるをまじりたるをまじりたるを  
うてまじりたるをまじりたるをまじりたるを  
家紀うつらまじりたるをまじりたるをまじりたるを  
まじりたるをまじりたるをまじりたるをまじりたるを  
まじりたるをまじりたるをまじりたるをまじりたるを  
まじりたるをまじりたるをまじりたるをまじりたるを

の原うまら理とばいさうよらびあしぬきり  
屋

朱子が私曲私細よりその一二とつらんふの朱氏かつこ  
く文文西云の細より一終り富貴と享て宗孫と  
恒まじりたるをまじりたるをまじりたるをまじりたるを  
まじりたるをまじりたるをまじりたるをまじりたるを  
まじりたるをまじりたるをまじりたるをまじりたるを  
まじりたるをまじりたるをまじりたるをまじりたるを  
まじりたるをまじりたるをまじりたるをまじりたるを

101-101111

とも申すて殺法をいひて殺せらるる事なきをいひて  
 まことりていひていひ人なる生れたる然るにいひて  
 かくまふ事知りていひていひていひていひていひて  
 一處にいひていひていひていひていひていひて  
 又其書に記されし事ありていひていひていひて  
 一問していひていひていひていひていひていひて  
 生ていひていひていひていひていひていひて  
 らいひていひていひていひていひていひていひて  
 神の御心はなほいひていひていひていひていひて  
 一とていひていひていひていひていひていひて  
 の事といひていひていひていひていひていひて

うかひていひていひていひていひていひていひて  
 合点に記されし事ありていひていひていひていひて  
 よありていひていひていひていひていひていひて  
 色に記されし事ありていひていひていひていひて  
 病をいひていひていひていひていひていひていひて  
 ことらとありていひていひていひていひていひて  
 病をいひていひていひていひていひていひていひて  
 功徳といひていひていひていひていひていひていひて  
 多とありていひていひていひていひていひていひて  
 ありていひていひていひていひていひていひていひて  
 南に記されし事ありていひていひていひていひて





此理をわたりて其のたはぬ徳とありてはとあるとありては  
 のまゝにあらざるをばわらへては固くはたしむるに  
 ありとあるらんやむらわらざるをばはたしむるに  
 らぬとあるよあつたればはたしむるに  
 とありてはらんやむらわらざるをばはたしむるに  
 と世通見ゆ徳とありては

移よつて徳をたぬとあるらんやむらわらざるをばはたしむるに  
 と世通見ゆ徳とありては  
 移よつて徳をたぬとあるらんやむらわらざるをばはたしむるに  
 と世通見ゆ徳とありては

高徳とありてはらんやむらわらざるをばはたしむるに  
 と世通見ゆ徳とありては  
 明日此のまゝとありてはらんやむらわらざるをばはたしむるに  
 と世通見ゆ徳とありては



寬文四甲辰己月吉日

中務局傳板行

三十八

三十八

贈  
弟

三ノ子

